天界

第245號（第 21 巻）　（昭和16年）　11月の天象

卷頭　　隨筆

宇宙を觀る，人生を觀る

山　本　一　清

"私設天文臺のこと" など

わが日本の天文社會を，ごく虚心但懷に見る人は，いろ々々の點に於いて不思議と思はれることがあるのに氣が附くと思ふ．例へば，帝國大學の天文學科あたりを卒業した人々が，天體の實地觀測に興味を持たないで，むしろ理論の研究へ向く人が多いこと，之れがために，大學の天文臺では，望遠鏡が殆んど使用されずに放置してあつて，只，圖書のみが盛んに利用されてゐること，之れに反して，比較的に貧弱と思はれる器械設備であるに拘らず，よく其れが使用され，割合ひに立派な能率を擧げてゐるのはアマチュア天文家の經營する天文臺であることである．こうした奇現象は，西洋諸國では決して無いことで，ひとり我が國の天文界にのみ見られることなのだが，之れにはチャンと理由があるのである．

大學の卒業生が，觀測者になりたがらずに，理論家になりたがるのは，大學3ケ年の課程中に於いて餘りに理論のみを多く教へ過ぎるからであつて，其の割合ひに觀測技術を修練する時間が少く，又，この觀測の興味を教へないからである．（此の事については，自分は，國内や國外に於いて多年の實際觀察と，經驗とを有つてゐるので，何れ，あとに詳しく論ずるつもりである．）

誰だつて，若い時から天文學の興味に惹きつけられた者は，同時に，望遠鏡によつて珍奇な天體現象を樂しみたいといふ希望を有つのは例外の無いところである．この希望を，大學では殆んど全く去勢されて了うのである．しかし，大學に入らない一般のアマチュアは，幸ひに此の不思議な去勢術にかゝらないため，最初からのウブな好奇心（之れが學術の研究には最も大切な原動力であることは，古哲も言つてゐる）を有ち續け，從つて，望遠鏡さへ有てば，其れによつて，觀測を樂しみ，勵むやうになるのは當然である．之れが人間の自然の姿である．

更に一つ，見逃し難い點がある．之れは必ずしも大學には限らないわけなのだが，公立でも，私立でも，同樣に，一般に大きい天文臺には一定の組織があつて，かりに或るメンバが，何かの觀測をやりたくても，他のメンバとの間に割り振りがあつたり，監督者や指導者との關係があつたりして，全く自由な觀測行爲が許されない．多くの場合には，上官からの命令によつて觀測に從事させられたりする．又，器械も，自分一個の私有品でないがために，之れの取扱ひが萬事粗雜となり，無責任となることも免れない．時には，やりたくない觀測もやらねばならぬ．之れに反して，アマチュア個人の天文臺に於いて，私有の望遠鏡を使用する場合には，別に監督者があるわけでなし，眞に心の向くまゝに，やりたい時にやるのであるから，何のこだわりも，制約も無い．又，器械は自己の私有品であるから，器械の小部分に至るまで，心から之れを愛する心がある．器械を愛する者と，器械を愛しない者と比べて見て，仕事の成績に差違が生じて來るのは言ふまでもないし，又，器械の壽命や，能率に甚だしい違ひが現はれるのは衆知のことである．私有と共有とでは，萬事について責任感や，愛着心がマルキリ違ふ．

尙ほ，今一つ，注意すべきは，觀測者の自意識である．俸給を貰つて研究や觀測をやつてゐては，どうしても一種の“義務”的な職業意識があり，仕事には多少でも“八百長”的な心理が働らき得る．しかるに，自由な觀測者の場合には，其んな不純な心理は皆無である．更に，又，私有の望遠鏡は，多くは自己の邸宅內に設備されてゐるから，萬事について出入が便利であるし，又，夜間の觀測などには，或る場合には，ネマキのまゝ飛び出して行つて，望遠鏡にかじり付くことも出來る．しかし，公立や官立の天文臺では，そんな自由さは無い．

それや，これや，いろ々々の點から比較考慮して見ると，職業的なサラリマン天文家よりも，絕對自由なアマチュア天文家の方が，萬事について有利であり，能率的である——も少し具體的に言ひ直して見ると，サラリマン天文家よりも，私的のアマチュアの方が，同じ器械の能率を三倍も，四倍も擧げ得ると思はれる．實例は澤山ある．例へば，口徑10糎程度の望遠鏡があれば，アマチュア天文家は學的に可なり立派な成績を擧げるけれど，職業家は20糎や30糎の優秀機を使つて，尙ほ此のアマチュアに劣るやうな成果しか獲ない場合が多い．

……も早や，之れ以上にくどいことは言ふまい．とにかく，アマチュア天文家と言ふものは，學界のために，之れほど貴ぶべき存在であるのである．自分は，こうした意味に於いて，アマチュアの自重を促すと共に，又，私設天文臺の設立を特に奬勵したいと思ふのである．

一體，學術の研究などといふものは，サラリマンの精神では出來ることではないのである．どうしても，之れは人間の純粹な本心から湧き出る熱心と興味とによつて遂行されなければならないものである．古今東西の學術の歴史を見ても，實例は澤山ある．眞の因はれざる學者は民間にあるのである．麻田剛立といふ一民間學者が若し居なかつたならば，德川中期以後の我が天文學界は，どんなになつてゐただらうかと，思ふだけでも，ゾッとする．

明治以來から始まつた我が日本の天文學が過去50年の間に，果してどんな途をたどつて來たかを考へれば考へるほど，この目前の大脱線を救ふためには，アマチュア天文界の興隆と，私設天文臺の增加（と連絡と）が唯一の途であるとしか考へられない．

序でに言つて置きたいことは，歐米諸國の人と天文事情とである．國民道德上からは，我が國と西洋諸國との間に大きい違ひはあるだらうけれど，所謂社會道德に於いては，我が國人は斷じて西洋人に及ばない．之れは誠に遺憾なことであるが，國民の少年時代の訓練が違ふのであるから，教育そのものを改めるより他に途があるまい．今日のやうな非常時代に於いて，如何に時局の認識に缺けた不良漢が我が日本に多いかといふことは，世に明らかである．天文界に於いても，日本に於ける職業天文家が無責任であるといふことは前にも述べた．西洋では，ドイツでも，イタリヤでも，英米でも，公德心が發達してゐるから，公有品と私有品とで，器械に對する扱ひ方の區別は決して日本ほどひどいものではない．否，一般の生活上にも見られる所であるが，私有の望遠鏡よりも，天文臺內の共有の望遠鏡の方を，はるかに大切にする習慣であることを自分は度々見た．又，“義務”といふ觀念も，西洋と日本とで大變違ふ．官吏や公吏は，其の精神に於いて，全く public servant であつて，謙虛であり，忠實であり，溫良である．之れに反して，日本の官吏や公吏は暴君であり，壓制者であり，無責任者である．こんな心理上の違ひがあるから．學者なども，西洋では，個人天文臺の主人には多少勝手な人もあるけれど，大天文臺にゐるサラリマン天文家は實に從順であり，德義心が厚い．故に，彼等の中には，日本人に見受けるやうな無責任漢は少い——こういふ點から考へて見ると，只，形ばかりを眞似て，日本にも大天文臺を增すといふことは問題である．少くとも，國民道德がウンと改良されて，公德心が昂上するまでは，天文臺や研究所が，私立や私設のものを增すことが，純な學術の進步のためには大切である．

讀者よ，學術と道德との關係を考へ給へ！

(1941—9—3)